100 年後の国宝、1000 年後まで使われ受け継がれる唐櫃を

日本伝統職人技術文化研究会では、この度、和歌山県の高野山奥之院に唐櫃を奉納するため、制作を開始いたしました。

それは、イベントという一過性のものでなく、何か形に残るものを作れないか、という想いから始まりました。

職人にとって、仕事が全てです。

私たちの仕事を通じて、私たちが継承してきた技を

想いを次代に引き継ぎたい。

そんな想いを高野山金剛峯寺でもご理解いただき

制作する運びとなりました。

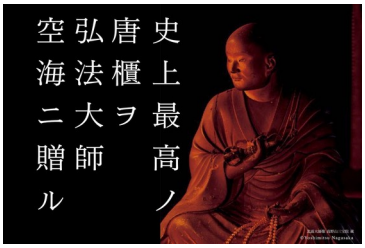
つきましては、ご理解ご協力をよろしくお願いいたします。

唐櫃制作にあたりクラウドファンディング始動

この度、唐櫃制作にあたり、クラウドファンディングを始動いたしいました。

受け継いだ全ての技術と情熱を注いで、唐櫃制作にあたる所存です。

そんな想いに賛同していただける方、どうぞご理解ご協力をよろしくお願いいたします。



※クラウドファンディングに関しては、当会ホームページをご覧ください

<u>郵便振替での寄付も受付しております</u>

〇一口 5,000 円　口数及び金額は任意です。できる限りのご協力を賜れば幸いです。

〇口座番号：00780-5-45253

〇加入者名：一般社団法人日本伝統職人技術文化研究会　〒930-1262　富山県富山市東黒牧 298 番地

〇奉賛者ご芳名はお大師さま御宝前にお納めさせていただきます。

高野山奥之院
生身供（しょうじんぐ）における
「唐櫃（からびつ）」制作趣意書

職人仕事の真髄を極める。

古くより、日本の職人と社寺仏閣は実に深い関係を築いて参りました。人々の幸せを願う寺院の想いを職人たちは培った知恵や技術でかたちに表してきたのです。

（一社）日本伝統職人技術文化研究会は、長年受け継がれてきた技と心を持った職人集団です。職種や住む地域も様々ですが、その腕を信頼しあい、時にひとつのものをつくるにも手を取り合います。

この度、当会の職人たちで、高野山奥之院にて行われている生身供（しょうじんぐ）という食事において使用される「唐櫃（からびつ）」を制作奉納することとなりました。

日本の仏教界の中枢を担う聖地のひとつである高野山に納めることは、職人冥利につきる仕事であり、また、社寺と職人との関係性や、さらにはそこから生まれた文化の象徴となるものが出来ると考えております。

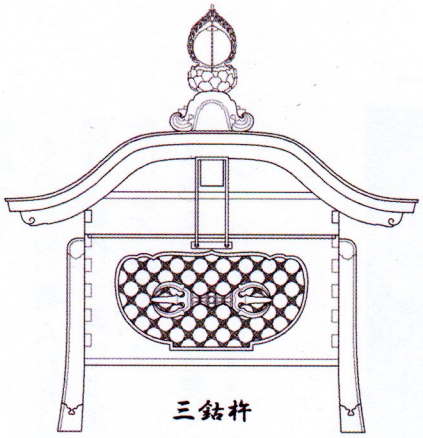
つきましては、この歴史ある法会に使われる唐櫃（からびつ）を制作するにあたり、皆様の浄財をお願いいたしたく本状を書かせていただいた次第でございます。当会の腕の立つ職人たちの技で作られた唐櫃は、過去一二〇〇年に渡り営々と繰り返されてきたこの法会と共に今後も長きに渡り高野山奥之院で大切に使われ続けていくと思っております。

なにとぞ深いご理解と心からなるご賛同ご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

平成二十八年四月吉日

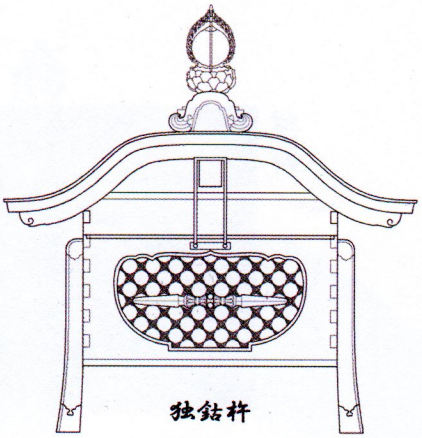
（一社）日本伝統職人技術文化研究会　代表　上野　幸夫

高野山奥之院生身供唐櫃之図



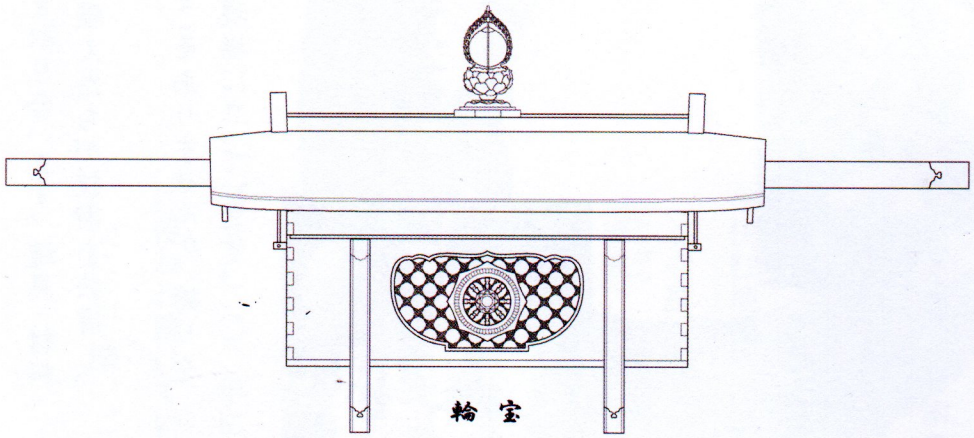
三鈷杵

正　面



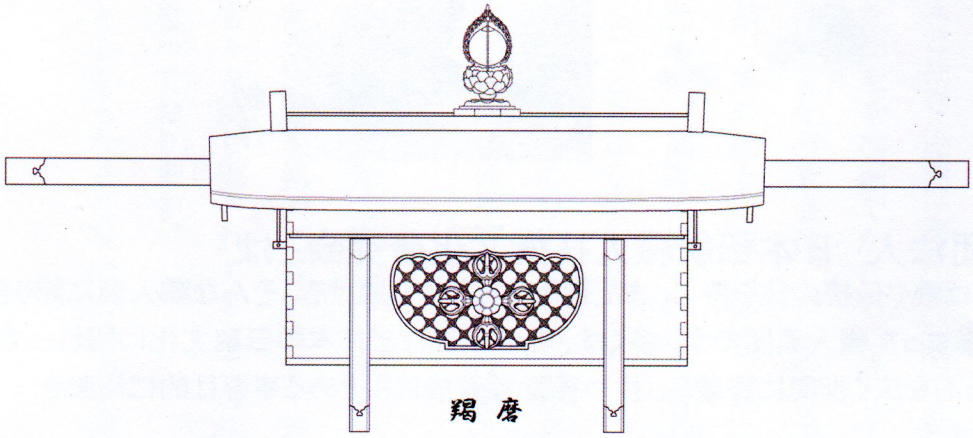
独鈷杵

背　面



輪　宝

右側面



羯　磨

左側面

設計　職藝学院　教　授　上野幸夫

製図　同　右　研究助手　牧野直子

平成二十八年四月現在

高野山真言宗総本山金剛峯寺